

動物との気持ち

一年 下島結衣

「動物」とは、どんな存在なのでしょう。家庭で飼われていて、家族のようにいっしょにいる。そして、動物を飼うことでうれしさと悲しさの気持ちを知ることになる。私も、そんな経験をしました。それは、私が小学校一年生の時のことでした。

おばあちゃんの家では、二ひきのねこを飼っていました。私の家とおばあちゃんの家は近くにあるため、私はよく遊びにいっていました。私は動物が大好きでしたが、家に動物がいなかったため、よくおばあちゃん家のねこを見にいっていました。私は、おばあちゃん家のねこをかわいがっていました。なであげたり、エサをあげたり、よくしていました。でも、ある一匹のねこが、年のせいかずつとねていたり、調子をくずしたりすることが増えたのです。私は、少し心配でしたが、優しくいつもどおりに生活していました。しかし、ある日から、ねていることがほとんどで、あまり動かなくなりました。エサを食べる元気もなくなってきたので、どんどん弱っていききました。そして、ある日の朝、体がかたくかたまり、息をひきとりました。私は、号泣してしまいました。その日は、学校がある日で、登校しても、ねこのことで頭がいっぱいでした。もう何も考えられませんでした。その日だけではなく、次の日もその次の日も

も元気になれませんでした。

そして、少したったとき自分の気持ちに気づきました。私は、いつもいやなことやつらいことがあったとき、いつもおばあちゃん家へ行ってねこをなでていました。私はそのときにねこに支えてもらっていたことがわかりました。ただかわいがっていただけではなく、自分を支えてくれる大切な存在だったんだと気づきました。

私は、こういう体験を通して、2つのことを知りました。一つ目は、動物が自分を支えてくれることです。動物たちが実際に支えてくれていたわけではありませんが、いっしょによりそってくれるだけで、支えられているように思えました。

二つ目は、動物を飼うことによっていろいろな感情を感じることです。例えば、いっしょにいてうれしい気持ちや、私のようにいなくなってしまうときの悲しさなどのさまざまなきもちがおこるようになります。だから、動物を飼うときには、そのようなことを受け入れる覚悟が必要だと思いました。私のように急に悲しいことがおきてもおかしくありません。だから、それがおきてしまっても対応できるようにする必要があります。この経験をいかして、次に動物を飼うときは、このことに気をつけて飼おうと、私は思いました。